

【テーマ2:外国語(英語)における体系的な「言語活動開発スキル」の涵養を目指す 教員研修高度化モデルの提案: CAN-DOリストの本格活用を目指して】

【国立大学法人東京外国語大学】

コンテンツ開発再委託先: 株式会社Z会
検証協力: 静岡県総合教育センター(+アライアンス関係の自治体(三重県、山梨県、鹿児島県))

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 外国語(英語)学習指導要領に強く影響を与えているCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)についての現場教員の理解不足
- ◆ CAN-DOによる目標設定・言語活動の設定に関する体系的な研修機会の不足

モデルの概要

- ◆ CEFR-JのCAN-DOリストに紐づくタスク事例・タスク作成のエッセンスから教員の言語活動開発スキルを向上させる

活用する技術・ツール等

- 学習指導要領とCEFRをつなぐCAN-DOリスト
- CAN-DOリストに紐づく言語活動タスク事例
- CAN-DOリストに紐づくタスクのエッセンスをまとめた「インベントリー冊子」

高度化に資する取組

帰納的アプローチ

CAN-DO + タスク事例 → タスク作成のエッセンスを理解

演繹的アプローチ

CAN-DO + インベントリー → タスクを自ら作成

帰納的アプローチ: CAN-DOに紐づく多数のタスク事例を参照することにより、ある特定のレベル・技能のタスクを作成・実施する上での要所を帰納的に理解する

演繹的アプローチ: 「インベントリー冊子」の中でCAN-DOリストの特徴・エッセンスをあらかじめ提示し、そこから言語活動タスクを自身でデザインする

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ 研修参加教員のCEFRやCEFR-Jに関する基礎理解の足並みを揃える
→ 事前課題としてのオンライン動画講義等の活用
- ◆ 研修参加教員の気づきを生む研修プログラムの構築
→ 参加者同士でのディスカッション・意見交換を通して指導全体に意識を向ける
- 指導の中核的役割をなす言語活動のより効果的な実施